

# ネットワークアンケート ②7

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

## Q. 糖尿病医療に携わる中で、不便や不満、ストレスを感じることはありますか？

今回は、糖尿病医療の現場や、療養生活の中での“不便や不満”について伺いました。糖尿病と長く関わる中で、「ここを改善できたら良いのに」と皆さんが感じている事柄は、今後の課題として見直していく必要があるかもしれません。

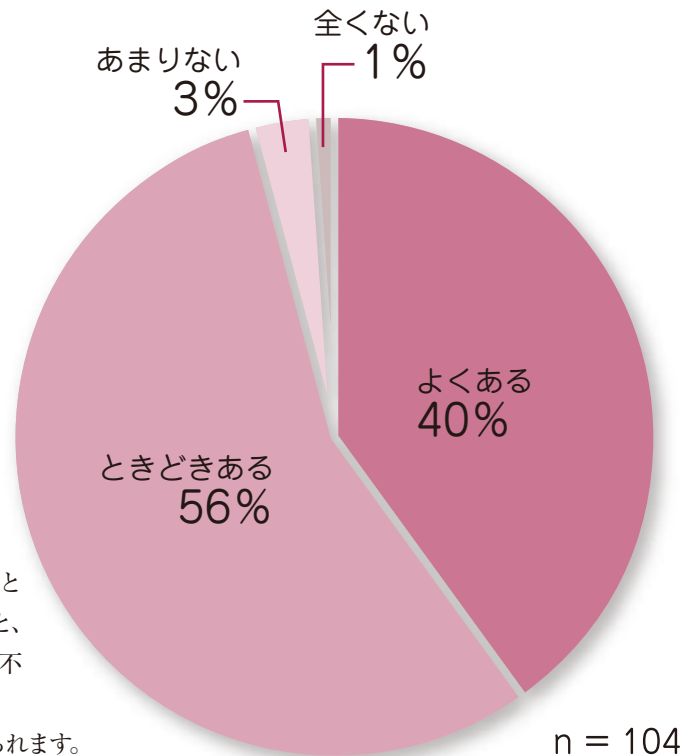
[回答数：医療スタッフ104名(医師22、看護師28、准看護師1、管理栄養士28、薬剤師14、臨床検査技師6、理学療法士1、その他4。うち健康運動指導士4、日本糖尿病療養指導士33)、患者さんやその家族322名(病態1型糖尿病143、2型糖尿病170、糖尿病境界型5、その他4、治療内容/食事療法241、運動療法195、飲み薬の服用149、インスリン療法208、その他5)重複回答有]

96%の医療スタッフが「ある」と回答しました。特に、どのようなことに不便・不満を感じるかについて伺ってみると、「患者さんに対応する時間的余裕」が最も多く63%、そして「診療報酬」、「医療制度」、「主治医や医療スタッフとの連携」が続きました。具体的には、「もっと指導に時間をかけたいが患者数的に難しい」「糖尿病療養指導士の資格が生かされる制度・しくみがない」「多くの職種が教育・指導を行っているが、診療報酬額が少ない」など多数多様。一方で、患者さんから、不便や不満についての相談

を受けたことが「ある」と回答された方は86%と、医療現場では“不便や不満”が渦巻

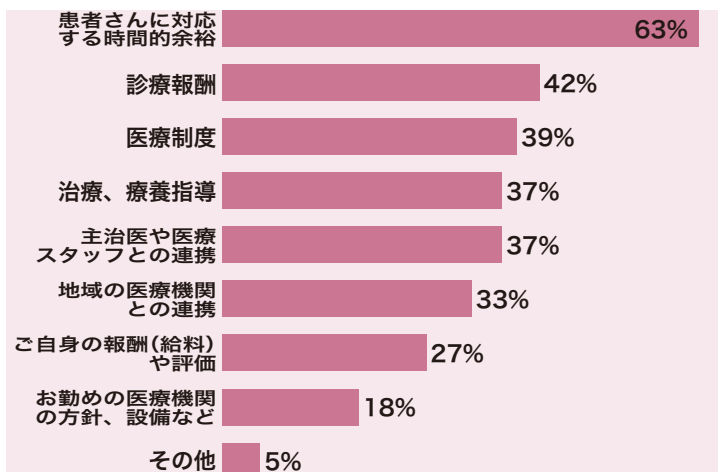
いている現状が見受けられます。

自由記述では、「療養指導は病院収入にならないので糖尿病治療から撤退あるいは省略化が行われている施設が増えていくと聞く」「経済的負担による受診抑制・検査抑制が一番怖い」「医療費削減も当然重要だが、糖尿病予備群や内服薬患者に対してもSMBGは必要」「チーム医療や地域



連携を行いたいが、なかなかシステム化できない」「現状は何でも医師の指示が必要だが、療養指導はコメディカルチームを中心としたほうが効率が良いのでは」など、大変多くのご意見をいただきました。

## Q. 特にどのようなことに対して「不便・不満」を感じますか？ (上位3つを回答)



### 療養生活や社会生活のサポートに、あるとよいと思うインフラやサービスなど (自由記述の一部)

- インスリン対象者以外の患者さんにもSMBG保険適応を
- 1型患者さんへの国の医療費補助。例えば特定疾患や身体障害者手帳(すい臓機能障害の新たな位置づけ)の取得など
- 糖尿病患者さんが教育入院などしやすくするための雇用側の制度
- 国が全面補助して尿糖検査程度は無料で
- 高齢者糖尿病患者の療養サポート、特にインスリン注射の支援を
- 糖尿病とはどういう病気なのかをもっと世間にアピールを
- 食事療法、運動療法がいつでもサポートできるような場所を
- 糖尿病食の料理教室、糖尿病食のレストラン